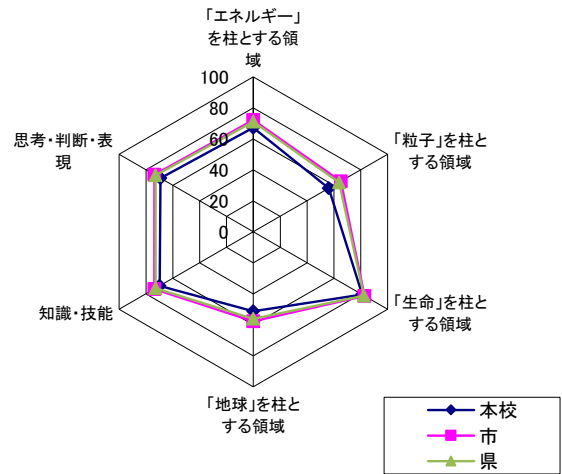


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	56.2	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	81.1	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	51.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	69.8	73.8	72.8
	思考・判断・表現	69.2	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を下回っていた。 ○日光を集めたときの明るさと温かさについての問題と、磁石の性質についての問題と、実験の結果から正しい回路を選ぶ問題の正答率が市の平均を上回っていた。 ●音の大小の震え方の違いを理解することについて課題が見られる。 ●磁石に引き付けられるものを理解することについて課題が見られる。	・単元によっては、実験の結果を記録する問題の正答率が低いことから、実験から分かることを正確に理解できていないことが考えられる。実験ではどんなことが分かったのか児童の理解度を正確に把握し、全体でも必ず考察を共有し、理解できていないところがないか自分で気付けるよう進めていく。 ・実験結果やグラフから考察し、まとめの文を考える問題の正答率が低いため、今後は児童が自分の言葉でまとめの文を書くことで、知識が身につくように指導をしていく。
「粒子」を柱とする領域	本校の平均正答率は市の平均を大きく下回っている。 ●物は形を変えても重さは変わらないことを理解することについて課題が見られる。 ●物は同じ体積でも物の種類によって重さが異なることを理解することについて課題が見られる。	・物の重さに関する知識に課題が見られる。調べる問題とそのために行う実験が関連付けられていないと考えられる。実験を行う前に、問題とめあての確認をしっかりと行い、めあてに合ったまとめを児童が考えられるように指導をし、知識の理解を図っていきたい。
「生命」を柱とする領域	本校の平均正答率は市の平均とほぼ同じである。 ○虫眼鏡の正しい使い方と、昆虫の住処についての問題の正答率が市の平均を上回っていた。 ●植物の育ち方を理解することについて課題が見られる。 ●昆虫の育ち方の違いを理解することについて課題が見られる。	・昆虫と植物の体に関する知識と技能が定着していないので、より体験的な活動の時間を確保し、知識・理解・技能が身に付くよう、飼育や観察などで昆虫や植物に触れあう機会を増やしていく。
「地球」を柱とする領域	本校の平均正答率は市の平均を下回っていた。 ○方位磁針の正しい使い方は、市の平均との差が1.8ポイント未満とほぼ同じである。 ●実験結果から影と太陽の位置関係を理解することに課題が見られる。	・実験用具の使い方を正しく理解してない児童が多いことが分かる。影や太陽などを観察や実験をするときには、グループ活動を取り入れ、用具の使い方が正しいかを確認し合い、観察の仕方や観察器具の使い方を伝え合い、互いに学び合うことができるようにしていく。